【富山いずみ・総合】 中学生からの質問に先輩が答えます！2026

Q1. どういう関連の仕事につきたくて、この高校で勉強しているのですか？

A. 様々な進路目標をもった生徒がいます。高校生活を通じて自分の進路を見つけその進路に向かって勉強を頑張っています。

- 総合学科は、看護科とは違い、様々な目標を持った生徒がいます。具体的な将来の夢が決まっていなくても大丈夫ですが、自分がどんなことに興味や関心があるか考えていく必要があります。科目選択では、将来、自分が必要になる科目を調べて選択することになります。

Q2. 今している勉強方法は？

A. 課題で出されたワークを何回も解くようにしています。

- 1回目は自力で解いて分からないものをメモしておき、その後わからないものを解説などを見て理解します。2週目以降はそれを思い出して解いていきます。
- 自分で分からない問題があったら先生や友達に教えてもらいましょう。また、教える側になることでより理解度を上げることができます。

Q3. 普段、どのように勉強時間を確保していますか？

A. 家で勉強を始める時間を決めて、なるべく習慣化するようにしています。

- 例えば『家に帰って手を洗ったらすぐ机に向かう』とか『お風呂上がりの8時からは勉強をはじめる』みたいに、毎日の行動のルールを決めておくようにしています。勉強を始める時間を決めておくと、『いつ始めようかな』と迷う無駄な時間が減って、自然と集中モードに入りやすくなります。
- 高校に入ると部活や通学で中学生の時より忙しくなりますが、時間を習慣化しておけば短時間でも毎日無理なく続けられます。最初は10分や15分からでもいいので、『この時間は勉強する』という自分なりの固定時間を作ってみてください 。

Q4. 高校では、どんなことに困ったり、大変なことがあったりしましたか？

A. 科目選択（文理選択など）の安易な決定により、後悔している生徒もいます。早めに自分の進路や興味・関心事を探っていくことが大切です！

- 「数学が苦手だから文系」「なんとなく実験が面白そうだから理系」といった、目の前の教科の好き嫌いだけで決めてしまいがちです。社会にある職種の9割以上を知らない状態、あるいは「公務員、医師、弁護士、エンジニア」といった分かりやすい職業しか浮かばない状態で、将来の選択肢を半分に絞り込むことになります。親や友達から「これからはITの時代だから理系がいい」「文系は就職が大変」といったステレオタイプな助言をされ、自分の本心とは違う選択をして後悔するケースも少なくありません。担任の先生と進路面談を繰り返し行って自分自身の進路を決めていくことが大切です。

Q5. 総合学科では自分で授業を選んで時間割を考えるのは難しいですか？

A. 自分の将来に必要な科目をしっかり調べ、慎重に選択する必要があります。

- 高1の夏頃から科目選択が始まります。高1の夏には大学や専門学校などのオープンキャンパスに足を運びはじめ、大学等の受験について考えていくことになります。高校受験が終わったばかりだと思って、ゆっくりしていると科目選択の時に納得いく選択ができなくなる場合があります。自分がどんなことに関心があり、どんな道に進みたいのか早いうちから考えていく必要があります。得意不得意だけでは選べないので、いろんな情報をキャッチして選んでいくことが重要です。科目選択のときには、担任の先生との面談が必ずありますので、迷ったり困ったりしたことは気軽に相談することもできます。

【富山いずみ・看護】 中学生からの質問に先輩が答えます！2026

Q1. 専門の勉強をしながら、学校行事や部活と両立できますか？

A. できます！「スキマ時間の活用」と「計画的な準備」がコツです。

- **時間を有効に使う：** 通学中の電車の中や学校の休み時間など、スキマ時間を使って課題やレポートをこなしています。
- **早めの準備がカギ：** 実習と体育大会などの時期が重なることもありますが、計画的に学習や準備を進めることで、行事でリーダー（団長や演舞リーダーなど）を務めたり、部活動と両立したりしている先輩がたくさんいます。

Q2. 看護科ならではの「やりがい」は何ですか？

A. 患者さんからの「ありがとう」と、自分の成長を実感できることです。

- **患者さんの力になれる：** 実習を通じて専門知識や技術が身につき、自分の関わりによって患者さんが回復されたり、笑顔になってくれたりしたときに大きな喜びを感じます。
- **感謝される嬉しさ：** 患者さんや周囲の人から「ありがとう」と声をかけられたとき、「看護の道を志してよかった」と強く実感します。
- **早いうちから社会性や知識が身につく：** 普通科に比べて看護知識が早く身につくため、部活でのけがの対応など日常でも活かせます。また、実習を通じてマナーや社会性も身につきます。

Q3. 初めて患者さんを担当し、「命を預かる責任」を一番感じた瞬間は？

A. 自分の観察や判断、一つひとつの行動が「安全や命」に直結すると実感したときです。

- **自分の行動への責任：** 食事制限のある患者さんへの対応など、「ここで見過ごすと命に関わる」という緊張感を持ち、一瞬一瞬を真剣に向き合っています。
- **チームでの報告・相談：** 自分だけで判断せず、先生や看護師さんに報連相（報告・連絡・相談）することの大切さを学び、高校生のうちからプロとしての自覚が芽生えます。

Q4. 看護実習で難しさを感じたとき、工夫・努力していることは？

A.「分からないままにしないこと」と「患者さんとしっかり向き合うこと」です。

- **事前・事後学習の徹底：** 実習前に病気や治療について調べるのはもちろん、実習後も教科書や資料でしっかり復習（事後学習）して知識を整理します。
- **周囲に質問・相談する：** 自分で調べて分からないことは、先生や看護師さん、同じチームの友達に相談してアドバイスをもらいます。
- **「なぜ？」を考える：** 単に暗記するだけでなく、「なぜこの看護が必要なのか」を患者さんの実際の状態と結びつけて考えることを意識しています。

Q5. 5年間の中で、苦しかったり辞めたくなったりしたことはありますか？

A. 正直、大変な時期もあります。でも「看護師になりたい夢」と「仲間の存在」で乗り越えられます！

- **乗り越えるための工夫：** テストや課題、実習が重なると大変ですが、予習・復習の習慣をつけたり、休むときはしっかり休んで息抜きをしたりしています。
- **同じ夢を持つ仲間の支え：** 5年間同じクラスで過ごすため、お互いに励まし合い、悩みを共有できる最高の仲間ができます。
- **原点を思い出す：** 苦しいときは「なぜ看護師になりたいと思ったのか」という初心や、将来看護師として活躍する自分を思い描くことでモチベーションを高めています。

以上の回答は、総合学科２年生の探究活動「高校を選び悩んでいる中学生がいずみ高校を選ぶにはどうすれば良いか」チームによってまとめられたものです。